

Message from a Globalist

姉妹提携校 Altrincham Grammar School for Girls

校長 Dana Ross-Wawrzynski 氏

2008年に本校と姉妹校提携を締結した英国マンチェスターにある同校の校長先生がゲストスピーカーとして来校されました。卒業していく国際生に向けてのスピーチの一部を紹介します。

「新しい領域を恐れずに、大胆に、忍耐強く」

名古屋国際中学校・高等学校の校訓「Frontier Spirit」……なんと心を鼓舞する校訓でしょうか。新しい領域を恐れずに、大胆に、忍耐強く冒険する力強さです。世界に飛び出すあなたたちは、ぜひこの学校で学んだ信念を忘れないでください。新しいものに挑戦しながら、伝統的なものも大切にしてください。

世界はどんどん小さくなってきていますが、国と国との間の経済的、政治的、そして文化的なギャップは拡大しており、認識も偏りつつあります。私たちは、言語やそのコンテキストを理解しないままでは、わかり合うことは難しくなっていました。生活をともにし、一緒に働いて初めて、共通の目標を理解することができるのです。

アルトリンガムで私たちは、名古屋から来た少女たちの強さに感動しました。彼女たちは学校生活にとても早く溶け込み、学業やさまざまな活動でも本校の生徒に十分な刺激を与えてくれました。最初の訪問者のサキコ(中高一



中高一貫コースを中心に

Hot! Information

2011年度学校基本計画(STS)の配布始まる！

昨年度から策定が始まった学校基本計画。これは全学年を対象に実施した学校評価アンケートを元に策定されています。昨年度の評価レビューから今年度の重点目標(数値目標)や方策まで明記されています。ここで昨年度の評価レビューの一部を紹介します。

評価レビュー

昨年度数値目標:

身だしなみ検査通過率97%

平均通過率97%を目標としました。多くの学年で100%を達成していたものの平均通過率は92%でした。しかし、生徒の身だしなみは全体的に改善され、規範意識の高まりも実感できるようになりました。

昨年度数値目標:

ゴミの減量前年比15%削減

御器所キャンパスで処分したゴミは対前年度-10%でした。その内訳は可燃物(対前年度-5%)、不燃物(対前年度-33%)、資源物(対前年度-14%)、段ボール紙(対前年度+13%)です。環境への意識向上や分別の徹底などを継続し、ゴミの減量には2011年度も取り組んでいきます。

Pick up

Feature

TOEIC®テストの設計者が米国より緊急来校！

英語教育のフロントランナー達が語り尽くす白熱討論120分！

2011年2月24日、「本気で考える日本の英語教育」を基調テーマとして、TOEIC®テストの元ディレクターでもあるスティーブン・ステューバック(Steven A. Stupak)氏を迎えて、日本の英語教育について考察を深めました。第二部の「日本の英語教育への提言」のステューバック氏とジョージ校長との対談では、日本と韓国の英語マーケットの相違について焦点があてられました。

Discussion

【Stupak氏】

韓国での私の経験は、これからの日本にとってもよいモデルケースとなるかもしれません。一昔前の韓国では、子どもが英語を学ぶなどといったことはまれでした。当時の子ども英語マーケットは微々たるものでした。しかし今日、韓国を見てください。子ども英語は韓国の英語マーケットの中でも最大規模にまで成長しています。一体何が起ったのでしょうか。ある頃から、大学生、女子大学生が大挙して海外留学をするようになったのがきっかけです。彼女らが渡米し、見聞を広め、



これからの社会を生きていく上での英語の重要性に気付いたのです。彼女らは母国に戻り、そして自身の子どもには、レベルの高い英語教育をほどこすことを希望したのです。これは日本についても同じことが言えると思います。

要は、日本のお母さんが、それもマス層のお母さん達が英語教育の必要性に気付いた時点で、日本における子ども英語マーケットは、これまで以上に爆発的に拡大することが予想されます。これは大切なポイントです。

【George校長】

確かにあと数年もすれば、お母さん自身が就職時にTOEICスコアを問われた世代になってきます。英語力の必要性は身に染みて感じているので、子どもには英語で苦勞させないように、子どもの英語教育に対して非常に熱心なお母さんが爆発的に増えてくるでしょう。お母さん方が真剣になるのも無理はありません。ここ最近企業社会においてTOEICスコア等を入社や昇進時の基準として採用されるケースが増えています。英語ができないと、就職できないし、課長になれないし、役員になれないのです。また昨今、企業が積極的に留学生等の外国籍の学生の採用を増やしています。学生が、日本人同士でパイを奪い合う時代は終わりました。これからは海外の学生とも闘っていかなければならないのです。もちろん英語ができてても必ず就職できるわけで



▲講演するIMET(JET開発団体)代表のステューバック氏

はありませんが、これからの時代、英語ができないと同じ土俵に立つことさえできないのです。これは死活問題です。皆さん、このことを真剣に、本気で考える必要があります。実際に、日本人学生が職を奪われているという現状が実際に起こり始めているのです。この傾向は今後加速的に強まっていくでしょう。他人事で済む話ではありません。これは、生徒を預かっておられる私を含む先生方1人1人が自分のこととして、ここでもう一度真剣に捉え直す必要があるのではないのでしょうか。

つまり、今日の講演会を良い機会として、①英語教育の重要性を改めて認識し、②危機感と熱意をもって普段の授業に臨み、③そして日本の英語教育界に対して、先生自らが積極的に発信していく、これらは本日この講演会にお越し頂いた先生方、私を含む先生方皆様に課せられた使命と責任だと考えています。



TOEIC®テストを育てた、ステューバック氏

1969年より世界最大のテスト開発機関ETSで、テスト開発に従事。1982年から90年の間、ETSプログラムディレクターを務め、TOEIC®TESTを日本はじめ諸外国へ導入。TOEIC®TESTをETSで最も成功したテストに育てた実績を持つ。現在は、韓国最大の英語教育・出版社、YBM Si-saの会長顧問としても活躍中。

第4回フロンティアカップ 英語スピーチコンテスト開催日時発表！

今年で4年目となる夏休み恒例のフロンティアカップ(英語スピーチコンテスト)の開催日が運営事務局から発表されました。昨年までの小学生の部に加えて、今年から新たに中学生の部が誕生し、小学5年生から中学3年生まで幅広く参加できるようにリニューアルしました。今年は国連の『ボランティア国際年10周年(19YV+10)』で、ボランティア活動や市民活動の推進を国連が世界中に呼びかけています。フロンティアカップでもこの話題を課題として取り上げます。



開催日時
2011年8月29日(月) 9時30分～
エントリー期間
2011年7月1日(金)～8月5日(金)

場所:名古屋国際中学校・高等学校 主催:学校法人栗本学園
後援:愛知県 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会
日本赤十字社(愛知県支部) 中日新聞社
審査員:本校校長、ネイティブファカルティ

詳しくは本校HPで

Great Dialogue from the Movies

"You don't understand! I coulda had class. I coulda been a contender. I could've been somebody, instead of a bum, which is what I am."

「お前は分かっちゃいない! 俺はもっと上品な男になれたかもしれない。挑戦者になれたかもしれない。今みたいなクズにならずにすんだかもしれない。」

ウォーターフロント(1954)はニュージャージー州の港湾労働者間の不正や暴徒の影響に関する映画です。多くの殺人の裏にはマフィアのボス、ジョニー・フレンドリー(リー・J・コブ)の存在があり、目撃者は暴徒による恐怖のため、耳が聞こえず、口がきけないふりをしています。テリー・マローイ(マーロン・ブランド)はジョニーの弁護士であるチャーリー(ロッド・スタイガー)を兄にもつ港湾労働者です。テリーはかつて将来有望なボクサーでした。ジョニーが賭けのために、テリーに負け戦をさせるようチャーリーに命令するまでは……。ある時、テリーは港湾関係者を誘い出して、結果的に殺害に関与してしまふ。彼は、ジョニーに不利な証言をするのを明らかに恐れていたが、同僚の妹と恋におち、そして聖職者(カール・マルデン)の助けで良心と闘って、ついにジョニーに不利な証言をするまでに至る。テリーは兄チャーリーに対して、ジョニーが命令してくる八百長試合はもうできないと説明する時にこのセリフを言います。この映画は、最優秀作品賞と主演男優賞を含む8つのアカデミー賞を受賞しており、音楽は、有名な作曲家であり指揮者でもあるレナード・バーンスタインが担当しています。

On the Waterfront (1954) is a film about corruption and mob influence among longshoremen in New Jersey. The union boss Johnny Friendly (Lee J. Cobb) is behind a number of murders, but witnesses play "D and D" (deaf and dumb) because of fear of the mob. Terry Malloy (Marlon Brando) is a dockworker whose brother Charley (Rod Steiger) is Friendly's lawyer. Years earlier, Terry was a promising boxer until Friendly directed Charley to have his brother deliberately lose a fight that he could have won so that Friendly could win money by betting on the weaker opponent. At one point, Terry is used to coax a dockworker into an ambush that results in the dockworker's death. He had apparently threatened to testify against Friendly. Terry falls in love with the dockworker's sister and, with the help of a priest (Karl Malden), he tangles with his conscience and at last testifies against Friendly. Terry utters the famous line above when explaining to his brother why he can no longer play along with Friendly's game. On the Waterfront received eight Academy Awards, including Best Picture and Best Actor. Leonard Bernstein wrote the score.